

# 耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。もうすぐ師走、寒い日が増えてきました。朝晩は冷え込みます。くれぐれもご自愛ください。

昨年から般若心経の意味を学んできたかわら版。ご心経は、生き方や社会のあり方を考える際の道標(みちしるべ)です。

先月までにご心経二百七十字全文について学びました。お疲れ様でした。いろいろな解釈があるようですので、ご興味がある方は、高僧のお話をよく聞いたり、信頼できる仏教学者の著書などを読むことをお勧めします。

宗派によって解釈も異なるようです。真言宗、禅宗、天台宗、法相宗などではご心経を使う一方、浄土真宗、日蓮宗、法華宗などではご心経を読まないとも聞きました(間違っていたらゴメンナサイ)。浄土真宗では「浄土三部経」、日蓮宗、法華宗では「法華経」を根本經典として使うそうです。

どんなお経であろうとも、ルーツは同じお釈迦さま。教えの根っこは同じであるはずですし、同じでなければ困ります。しかし、今や、それをお釈迦さまから直接伺うわけにもいきません。さまざまなお経の解釈や修行を通して、それを感じ、体得し、悟ることが必要ですね。

ご心経は何を説いていたのでしょうか。振り返ってみると、私の受け止め方としては、三つのことに集約されると思います。

ひとつは「無」。何かに固執することを戒めています。もうひとつは「空」。空っぽではなく、無限を表す言葉です。三つめは「六波羅蜜行」または「菩薩行」。「無」や「空」の境地に達するために行動することの大切さを論じています。

何かにこだわることなく、広く穏やかな心で人や事物や社会と向き合い、相手のことを理解しよう

と努力をすること、その大切さを説いています。同時に、なかなかそれができない人間の本質的な執着、争いごとの絶えなれない人々(衆生)を諭しています。そのことは、どんなお経でも同じような気がします。

以上のことを、繰り返して繰り返して唱えているのがご心経です。他のお経も、表現や論し方は異なっても、その根っこは同じであると思います。また、そうでなければ困ります。

多くの人々に親しまれるご心経。衆生(人々)が救われ、世の中(社会)の争いごとを少なくするたためには、一人ひとりの心の持ちよう、生き方、人間哲学が大切です。それを説くのがご心経です。それでは来月までごきげんよう。合掌。

※



定員40名 第13回「弘法さんを語る会」

## 「四国札所巡りと般若心経」



～執筆者・大塚耕平  
がお話させていただきます～

午前10時・午後1時  
の2回開催予定  
12月23日(金祝)

会場 覚王山 専修院  
日泰寺西

お申込制  
参加無料

お申込み先【事務局】あさい  
TEL 052・757・1955  
(定員になり次第締め切り)

